

第12回日本食海外普及功労者表彰受賞者講演内容

白形 雅則

本日は、大変名誉な賞を頂きまして、本当にありがとうございます。まず初めに、普段から日本茶の輸出に大変ご尽力いただいております日本茶輸出協議会の杉本局長に、お礼を申したいと思っております。ありがとうございます。私は静岡のお茶屋に生まれ、幼少の頃から、お茶の商売、工場に慣れ親しんで育ってまいりました。地元の高校を卒業後、アメリカの大学に留学をする機会に恵まれましたが、まさか卒業する時には、将来、自分が家業のお茶をアメリカに広めることになるとは、考えてもみませんでした。

1995年に先代である父親が亡くなりまして、私が、弱冠26歳で急きょ家業の白形傳四郎商店を継ぐことになりました。その当時、白形傳四郎商店は通信販売を専業としておりましたが、ちょうどその頃、インターネットやパソコンなどが普及し始めて、通信販売というのが、これから競争がますます激しくなるのではないかと思ひ、他に柱になるもう一つの事業が欲しいなと思ひました。ちょうど90年代後半から北米で緑茶の需要が非常に伸びているというマーケティングの調査や、あと、日本の統計を知りまして、その数年後2000年に、自分でも信じられないくらいの勢いで、デズティーという現地法人を、ロサンゼルス近くのトーランス市に設立しました。ところが商売を始めてみますと、統計や調査と、現実とはだいぶかけ離れていまして、実際は一からの開拓となりました。緑茶が伸びているという統計は、実は、日本食レストランや、日系、アジア系の食品ストアが増えていたこと。そして、現地で緑茶が伸びていたというのは、実際、アメリカのスーパーなどでは、日本産以外の緑茶が伸びていたということでした。つまり現地の米国の消費者には、日本産の緑茶というのは、あまり知られていないということが分かりました。加えて日本茶というのは、他の国のお茶に比べ非常に価格も高く、それも含め日本茶の魅力、情報をしっかりと消費者の方に伝えることが大事だと思ひました。

ちょうど2001年に、私が日本茶インストラクターという資格を日本で取りまして、そして早速、それを英語に訳し、アメリカで日本茶セミナーや試飲会を企画しました。当時、日本茶を英語でしっかりと情報を伝えられる方があまり少なく、そんなわけで、いろいろなお茶のイベントなどに呼ばれ、セミナーや試飲会をする機会を得ました。日本茶セミナーでは、日本茶の歴史や効能、おいしい入れ方等をわかりやすく、皆さんが興味を持ってもらうように説明し、また、抹茶や煎茶などを皆さんで楽しく飲んでいただくような、そんなセミナーです。この10年で、日本茶がだいぶ普及して知られるようになりましたけども、その一部に貢献できていたら嬉しいと思っています。最近日本茶が、例えば、抹茶ラテですとか、アイスクリーム、または健康食品の原料にまで、非常に商品が進化して、また、輸出も増えております。ただ同時に、日本茶本来の味わいですとか、魅力をしっかりと伝えることが、長い商品サイクルを生み、長く現地の消費者に根付くものと思っておりますので、これからもしっかりと日本茶の情報、魅力を伝えてまいりたいと思ひます。

そして、最後になりますけども、今の話ではちょっと伝わりにくかったんですけども、私は、日本の会社の社長も兼任しておりまして、日本の会社の社長をやりながら、勝手にアメリカに会社をつくり、そして、そこに移住し、ほとんどアメリカで活動しているような状態です。もちろん毎日連絡してはいますが、日本の会社のみんなが私の活動を理解し、サポートしてくれ、ついてきてくれていますので、本当に日本の会社のみんなには感謝しております。また、それ以上に、私の家族を本当に振り回してお

りますので、今日は、ここには来ていませんけども、この場を借りて家族にも感謝したいと思います。本当に今日は素晴らしい賞を頂きまして、ありがとうございました。